

## 子どもの健康観，性意識，価値観にかかわるメディアの影響についての調査のまとめ

この調査は，2003年2月の「日テレフォーラム4」参加に向けて，ひだまりメンバーや山名小学校すこやかママクラブ，教育関係MLなどでお聞きした意見と桑原自身の意見をまとめたものです。たくさんの方々から協力をいただきました。ご協力いただいた皆様，ありがとうございました。

### 【健康情報】

- ・健康情報に詳しい反面，基本的なところが抜けている。
- ・日常会話の中に「死ね」とか「殺す」ということばが安易に使っている。落書きの中にも見かける。その一方で，ドラマやアニメの中で，生き返ったり，簡単に死なない場面をみているため，ふざけから，いじめ・暴力の境がわからない。そういうケガが保健室にも持ち込まれる。事情を聞くと「そんな風になるなんて思わなかった」ということばが聞かれる。（というか，非常に多い）
- ・ダイエットに関する番組が多く取り上げられている。テレビの中で，太った人が面白おかしく扱われたり否定したりする内容が，ますます子どもたちにダイエット・やせ志向を蔓延させている。
- ・ダイエット＝やせることという意識を子どもたちが持っていることは危険。ダイエットということばが小学生でも一種の流行語になっている。健康であるかどうかという視点よりどれだけ足が細いか，どれだけ体重の数値が少ないかということで考えてしまう。
- ・テレビのタレントやモデルの体型は，医学的には「やせ」の部類。しかし，子どもたちには，「タレントのようになりたい」「タレントやモデルのようでなければ，きれいだといってもらえない。」など，自己を否定的にとらえてしまう。
- ・こうした感覚は，特定の番組によって作られるというよりは，無意識に長期にわたって植えつけられる。実体験のない事柄も子どもたちは，テレビを見ることで「体験した」と勘違いしてしまいがち。報道番組だけでなく，テレビドラマやバラエティも未来ある子どもたちへの責任と誇りを持って番組作りをしてほしい。
- ・ はやせる とか は健康にいいとか放送されるとブームになったりする。結局何でもそうだが，どの情報を信じていいのかわからなくなる。個人の価値観にかかってくる。
- ・ プチ整形，援助交際，プチ家出など悪いことをだめだといわずにとっつきやすいことばにかえて裏道のようなものを教えている。子どもたちにとっては，イメージとして「悪いことではない」だけでなく「流行」とさえとらえている。

・健康とファッションが混同されているように感じる。ダイエットやサプリメントなど、食生活を含めて心配になる。

・「生命は、自他共に平等で昔からずっと続いていて、次へ渡すという責任がある。」という大切な意識が薄れてきている。「今自分が楽しければいい」という考えになっている。視聴率だけを考えた娯楽番組はそれを助長している。

・健康を扱った番組は多く、放送翌日にはスーパーに、テレビで紹介された食品やグッズが売られている。流行を意識するような感じで、健康に関する安易な感覚が商売になっていることに危機感を感じる。そもそも、健康とは、日々の生活の積み重ねがあって作られていくものなのに、「これさえあれば」的な短絡的な感覚を視聴者に持たせてしまう。

本来は、家庭の中で子どもたちにもしつけのひとつとして生活習慣の形成という親の大切な義務があったのだが、それを軽く考えて、手軽に健康を手に入れようとする傾向がある。このことは、養護教諭をはじめ学校現場で子どもたちにかかわっている人間が感じていることである。

・アイドルタレントやトレンド俳優など、青少年の心をつかんでいる人たちがタバコを吸っている場面はやめてほしい。好きな男性について聞かれた女優が、「タバコをすうところが好き」といっているのを聞いてやめてほしいと思った。喫煙は、社会から締め出すべきなので、公共の電波に乗せてほしくない。

・とにかく言葉遣いが悪い(男子も女子も)「死ね」という言葉は最終的な意味を持つ言葉なのに平気で使っている。大人に対しても友達感覚で、悪態をつく。

・「整形してきれいになる」とか「やせてきれいになる」番組がブームだが、それがあたりまえのように放送しないでほしい。「自分を好きになる」セルフエスティームを高めることに逆行している！

・小学校高学年になっても「ドラマ」とドキュメントの違いがわからない。自宅で身内の死に出会ったことがない子どもたちにとって、生命の存在というものや「死」というものを理解する機会が少ない。そんな子どもたちが「死」を仮想体験するのがテレビなどのメディアなのかもしれない。そう考えるとテレビでの「死」の扱いにはやはり注意が必要だと思う。

・大人と子どもがボーダレスになってきている。それが、いいことかのような表現がTVの中で多く見受けられる。茶髪や子どもの化粧など、健康面から言っても決してプラスではいいこともあおるように番組で紹介している。子どもの健康のことを考えている大人なら、子どもの頭を茶髪にすることはしない。しかし、そういうことをさせることが、物分りのよい親だと勘違いするようなニュアンスが含まれたものがテレビの中で目立つ。最近のアイドルや子どもたちが、角兵衛獅子のように思える。

・テレビの影響ばかりではないと思うが、子どもたちがテレビに出てくる同じ世代の人たちが、化粧をし、ピアスをし、髪の毛を染めているのを見て同じような行動をまねる。このような傾向がどんどん低年齢化しているように思う。子ども時代がみじかくなってしまったように思う。

・ドラマでもドキュメンタリーでも取材でも、中学生はここまで OK、高校生はここまではあたりまえ、など子どもたちの興味をそそるような扱い方をして特殊な例を誰もがやっているような錯覚を起こすようで怖い。「今は、これくらい普通だよ」というが、普通というベルが下がっている。

・子どもたちは芸能人に対して、憧れを持っている。しかし、芸能人の中には、「過去に万引きしたことがある」「町で女の子をナンパした。セックスした。」ひどい場合は「暴走族だった」など、平気で口にする。ちょっと悪ぶった過去があるのが、かっこいいという感覚が、思春期の子どもたちに大きな影響を与えていることに気づいてほしい。自己開示ができていればそれまでだが・・・。「過去に悪いことをしても、なんとかなる。」という見方もできる「過去にはいろいろあったけど、がんばったから成功した」という見方もできる。

いずれにしても、青少年の規範意識が薄れている昨今、そうした影響を考えた言動をしてほしい。万引きなんてたいしたことではない、という意識を植え付けかねない。

・歌番組などで若い人がインタビューを受けるとき、足を組んで腕を組み、司会者と話している。一般社会であればこれほど失礼なことはない。アイドル・タレントと呼ばれる人はそういうことも考えてほしい。

・バラエティや視聴者参加番組などで取り上げられる極端な若者像に、子どもたちが同化しようとする危険性。本当に地道にがんばる子どもたちの姿より、一種独特のイメージを持った若者が、クローズアップされている。番組の中で決してそれを肯定した取り上げ方をしているわけではないが、それでも子どもたちは、「今の流行は、あのような姿なのだ」と、ひとつのパターンとしてインプットしている。

・バラエティ番組で、人をばかにしたり、暴力や危険な行動が罰ゲームと称して番組の中で行われる。子どもたちには、それが「危険なこと」ではなく「楽しいこと」と受け取られている。番組の中で、みんなが盛り上がっていたから同じようにこの場も盛り上がるだろうという感覚があるのではないか？こうした番組だけの原因とはいえないかもしれないが、無意識のうちに作用しているということはあると思う。生命に対する尊厳とか他人の存在を大切にするという気持ちが鈍化していくように感じている。

・バラエティ番組だけではなく、ゲームメディアもそうかもしれませんが、TVというだけで考えると、簡単に人をたたいたり、蹴ったりすることですね、気になる。特に、その力の限度を知らない。それから、ある一定のタレントさんなどに対して、集中砲火を浴びせるようになってみたり、いたずらしたりしているシーンを見ていて、それってまずくない？と思う感覚が、日々

放送されると、鈍っているような気がする。

・あるお母さんからお話。初めてゲーム機を買った。中1の娘と小4の息子。初めてゲームをしたとき、キャラクターが高いところから落ちる場面がある。家族全員がキャラクターが落ちるとき、声を合わせて「痛い!!」「かわいそう」と叫んだ。「あんなところから落ちた痛いよね」と口々に言った。しかし、ゲームに慣れてくると、だんだん感覚が麻痺してくるのを実感した。特にそれが早かったのは下の子供だった。自分でも「どうせ、起き上がってくるからだいじょうぶ」と、思っていることに気がつき、怖いと思った。

バラエティ番組で、危険な罰ゲームや暴力や下品な下ネタで笑いを取るような場面を繰り返し見ることで、「痛み」とか「危険」に対する感覚が麻痺していくというのはこういう感覚か、と感じた。保健室にもちこまれるケガの中にも、事情を聞くと「そんな風になるなんて思わなかった」ということばが聞かれる。(というか、非常に多い)。どこまでやるとどれだけ痛いのかという実体験はないのに、テレビの中のバラエティなどで繰り返し見ていると、仮想体験をしたかのような感覚でやってしまう。相手がどれだけ痛いのかとか、どうなるのかを考えることができない。なぜなら、バラエティでは、それが楽しいこととして表現されているから。

・特に、ここ10年ほどで、バラエティーの作り方が変わってきたのでは?小型のCCDカメラを使ったり、ハンディカメラの視点で放送する番組がとて増えてきた。例えば、電波少年(NTV 4ch)をはじめとして、部屋の天井に備え付けて、あたかも視聴者がその部屋を除いている、他人の生活をのぞき見しているかのような視点で、ドキュメンタリーっぽく制作しているバラエティーの数がとても多いと思います。それで、問題は何かというと、あきらかにバラエティー、明らかにフィクションだと分かるリテラシーを持っていなければならないのですが、何かあれが本当であるかのように思いこんでいる子どもたちが多いような気がします。このことは、電波少年で、猿岩石がユーラシア大陸ヒッチハイクという企画があって、香港からスタートして、ロンドンへヒッチハイクだけで行くという構成だった。

このときに、事件というか「やらせ!」ってことを言われた。たしか、途中で武装地帯を抜けるために、飛行機を使った移動をしたということが原因で。そのときによく言われたことが、「この番組(電波少年)は、ドキュメンタリーと言っていないから、これは許されることだ。」ということ。これは何を意味するのかというと、ドキュメンタリーとバラエティーの境目が見えにくくなってきたということ。

最近の例で言うと、「ガチンコ」(TBS 6ch)生徒の中には、本当にがんばっているんだ、大変だというように、完全にドキュメンタリーだと思いついてる子もいた。

他にも、ドキュメンタリー的な構成で編集してあるバラエティーがたくさんある。みなさんが知っている番組のほとんどが演出が入っていたり、やらせだったり、ずっとある場所にいるかのように見せて、ちゃんと家に帰っていたり。

どうしても、実際のことではないということを見抜けない子にとっては、ある程度見抜けたとしても教育的によくはないような気がする。早い話が見なければいけません。

本当に視聴者のリテラシーが要求される時代がきたなあと。これは、どっちが変わるべきなのか、

もっと情報を見分ける力を身につけるべきか？それとも、はっきりと番組制作側が、ドキュメンタリーなのか、ある部分バラエティーで演出が入っていたり、やらせがあるというべきなのか。

・ある番組制作会社の方の話。

「ここ数年のバラエティーにおいて、再現映像を用いることが増えてきた。「プロジェクトX」(A K 3 c h)とか、「いつみても波瀾万丈」(N T V 4 c h)。特に、実際の映像と改めて収録した映像とをまぜながら放送している番組もある。それは、やはり「再現映像」というスーパー(字幕)を表示してない番組は、させるべきだ。そうでないと、うそになると思う。」確かに言われるとおりかと思う。ニュースでは混乱をさけたり、誤解を招かないように、資料として映像を使うときは、小さく「資料映像」と出てきて、実際の映像ではないということが分かることはわかるが・・・。

・県内の学校での例

小学生の児童が給食のハンバーグを早食いしてのどに詰まらせて大騒ぎになったことがあった。同じ愛知県で死亡事故が起こって、早食い大食い事件が起こって早食い大食い競争はなくなったが、逆に言えば死亡事故がおきなければ続けられたのか？グルメ・飽食の時代と言われ、世界には飢餓で死んでいく人も多いというのになんてつまらない番組だろうと以前から思っていた。

【性に関すること】

・エイズが爆発的に流行している。先進国で増え続けているのは日本だけである。にもかかわらず12月1日の世界エイズデーのメディアの取り上げ方も、非常に小さくなってきている。5,6年前には、小学校で子どもたちにエイズを取り上げた授業を行っても、非常に関心が高かった。しかし、最近では、エイズという病気すら知らない子がほとんどである。

エイズの感染を予防し、これ以上の蔓延を阻止するために、学校を初め、あらゆる機関で取り組みがされている。しかし、一向に効果がない。メディアが取り上げなくなったことが大きい。1992年にNHKがエイズの特集番組を放送した。この年は、HIVの検査人数がそれまでの数倍に達した。

「神様、もう少しだけ」の番組が放送された年もHIV検査者が増えた。メディアにはそれだけの力がある。いい方向に力を発してほしい。

・恋愛に関するドラマやバラエティは、若年層の恋愛観にとっても大きな影響を与える。テレビでの恋愛の取り上げ方が、子どもたちのこれからの恋愛の基準になってしまったり行き過ぎた表現により自分たちもそれがゆるされると思い込んでしまう。

・テレビの影響はととても大きいという利点を利用し、番組の構成を最終的には今の性の乱れを正す方向に持っていき、青少年に示唆してほしい。

・性について隠す必要はないが、人前で大金歯声で言うことでもない。、というエチケットの部分は対大切にしてほしい。

・深夜番組は、大人の時間というのは昔の話である。深夜に放送されるバラエティ番組では、女性をランク付けし、商品化しているもののあり、若年層の性に対する意識をゆがめる。

・ニュースなどで、若者の性の規範が問題にされることがある。家庭はどうなっているのか？学校はちゃんと教えているのか？子どもたちの性の意識が乱れている……。などのコメントが出される。しかし、夜 10 時以降の番組で語られる若い人のオープンな性の話などをきいていると、安易な性交渉やそのことへの危機感のなさに愕然とする。中学生など性について興味が出てくる世代の子どもたちにとっては、正しい知識は持っていますが、実際には、メディアからの興味半分の情報のほうが、興味があり、間違った性意識を持ってしまう危険性がある。

・「性情報と性意識」という授業を中学校で行うが、その授業でのアンケートで「どこから情報を得ているか」と聞くと、「友人」という答えが一番多い。その友人は、テレビや雑誌から情報を得て、それをまるで自分が体験したかのように友人たちを前に話す。友人たちのわが広がり、それが集団としての意識となってしまう。中学生だって、好きならセックスしていいという考えが、芽生えてしまっている。

・性行為に対する安易な考え方が、子どもたちにはある。ドラマでは、性行為にともなう望まない妊娠、性病はほとんど出てこない。それ自体を物語りにしているものは美化されたものであったりする。子どもは、性行為をロマンチックなもの、みんながしていること、早く体験しないとみんなからおくれてしまうという思い込んでしまう子が多い。

・中学生や高校生が、大人の男性の「性のターゲット」と化している。見知らぬおじさんから声をかけられて「高校生の女の子のみんなお金ほしくてセックスしてるんでしょう。おじさんもお金あげるから一緒においで」と声をかけられた。「高校生はみんな売春をしていると思われて悔しい」となっていた。

・セックス(性交)を「エッチ」ということばで表現し、「たいしたことではない、軽いこと」と錯覚している。援助交際をするだけでなく、相手を脅かして金を取ったりという事件は、セックスを道具として利用しているだけ。テレビドラマの中であまりにも簡単にセックスを扱っていることも子どもたちの意識に影響している。できちゃった婚という軽いことばもでてきて流行になっている。

・援助交際や売春など、多くの人がやっていると思わせるような報道の仕方はやめてほしい。

・テレビドラマや男女の出会いの番組等ですぐ、体の結びつきを強調するような内容が多いのは、視聴者をあおっている。特に青少年に与える影響は大きい。

・子どもむけのアニメでも、キスシーンがあつたりする。バラエティでも女性の胸元をわざと写して出演者が喜んだりしている。女性とはそういうものだとか若い男の子たちが思ってしまうのではないか。

・性の商品化という点について腹立たしい思いがする。それにのる女性が多いのも事実。援助交際も相方の合意があつて成立することだが、大人には子どもたちを正す義務があるのではないか。メディアにかかわる大人、援助交際を求める大人に対する批判、罰をもっと厳しく買う人間がいなければ売ることができない。

・女性アナウンサーを飾りのように、討論番組などでおくのはおかしい。加えるのであれば、それだけの意味がある仕事をさせてほしい。

・赤ちゃんの置き去りやネグレクト、子どもへの虐待など、母親が批判されることが多い。なぜ、うませた男性への批判はないのか。女性だけでは子どもは産めない。「産ませる性」としての男性の責任をもっと取り上げるべき。

・放送時間と放送内容に気をつけてほしい。土日の昼間に再放送される番組は大人向けの番組が多く、不適切なものも多い。

・「中高生の70%が見知らぬ人との性交渉OK」という放送を見た。朝食時間帯の放送でもあり、子どもたちも見ている時間である。子どもたちの中には「みんなはそう考えているの？私はおくれている？」と感じる子もあるのではないか？せめて放送時間をずらしてほしい。

#### 【報道・言論の自由という名目での人権侵害】

・早朝・夜間を問わず自宅や職場などに行き、取材するのは、当人はもちろん家族や近所の人たちに精神的・肉体的に多大な苦痛をもたらすと思う。報道・表現の自由を主張する前にもっと考えることがある。

・子どもたちへのアンケートでも「どうしてプライバシーにかかわることをそれほどしつこくやるのかわからない」というものが多かった。

・拉致被害者への過剰な取材が影響したのか、罪のない朝鮮人学校の生徒がいやがらせ（チマチヨゴリを切り裂かれたりした）を受けたことを知り、日本人としてとても残念に思った。

・国による情報操作には断固反対するが、今のメディアにを見る限り「自浄作用」は期待できない。思わず法規制に賛成したくなるほど、一部のメディア努力だけでなく、メディア業界全体で考えてほしい。

・拉致問題は、テレビ局の争奪戦という様相である。伝えたい、という思いより、他局より面白い映像をとるという感じになってきている。

・政治の報道でも無理やり二者択一選択で追い金泥古希。・ニュース番組がニュースショーになっている。ニュースで取り上げた人物を演出効果によってイメージを作ってしまうことは、見る人に意図的にこの人をこう見てほしいというイメージを強要していると思う。

・被害者に対する取材が集中しすぎている。実名報道も二重の被害。  
・池田小の事件では、子どもたちにマイクを向けていた。子どもたちがたそのときの恐怖を聞きだそうとしているリポーターの姿に怒りを感じた。

【その他 青少年とテレビという観点から】

・「汚ギャル」もやめてほしい。食事時間中で不愉快。普通にまじめに生活している高校生までが同様に見られるのが気の毒。

・メディア、とりわけテレビによる学校パッシングにより、学校は何もいえない弱いものというイメージができてしまった。子どもたちは、「おまえら教師は、体罰で着ないんだろ。メディアに訴えてやる」などという。保護者も学校に自分勝手としか思えないような要求をしてくる。

・パチンコ選手権のような番組をゴールデンタイムにやっているのはおかしいのではないか。  
・整形手術をテーマにした番組では、外見のみをきれいにすることによって、女性は幸せな人生が約束されているという意味合いが含まれている。また 再現フィルムの中で「お前みたいなぶすが…」などと平気で大人同士が言いあっているのを見て、子供たちが同感しているのかと不安になる。そのままのやりとりを、普通の生活で使ってしまうということはないだろうか？番組を面白くすることばかりではなく、見ている子どもたちの健全な育成について考えてほしい。

・世の中に受け入れやすい方向の番組作りがされている。

・いじめ・虐待などテレビ報道のおかげで広く社会の問題として扱われるようになった反面、本当にどんな理由でその事件に至ったのかをという面を知らせずに取材したり取り上げていないだろうか？

・大きな事故の被害者や事件の加害者の家族へのインタビューは問題だと感じる。

・ある話題に一定期間集中しすぎる。ノーベル賞、拉致など毎日のようにやっていた。反対に以前問題になったこと（エイズなど）が今も問題は続いているのに、ほとんど報道されない。



・タレントから天皇陛下まで、プライベートなことを執拗に報道しているように思う。特にタレントについては、不倫や離婚、薬物、犯罪……。などすべてにわたり報道され、そうしたことに関する罪悪感などが薄れていくように思う。

・拉致された人たちの報道では、毎日のようにどこへ行ったとかというような内容のものまで流れ、どうみてもやりすぎだと多くの人を感じていると思う。そこまで見る側は求めてはいないのではないか？視聴者と制作者の感覚のずれを感じる。

・視聴者は、こういうのを喜ぶだろうという制作者側の思い込みというか思い違いもあると思う。もっと必要な大切な問題を取り上げてほしい。

・拉致被害者や田中さんについては、やりすぎ。何かあると、すぐに国民の知る権利という言葉が出るが、人権を無視してまで国民が知らなければならない内容だとは思わない。追うべきニュースは、ほかにもある。取材しやすい人にだけ取材しているようで不愉快。気軽に知る権利といってほしくない。

・拉致被害者への取材や田中さんへの取材を見ていると彼がほっとして生活する場が奪われているように感じる。

・特ダネと称してつかんだ情報を少しでも早く流そうとしているが、その情報がどれだけ検証されているか疑問に思うこともある。実際、松本サリン事件の河野さんのように誤報により人生が変わってしまった方もいる。視聴者が知りたいと思う部分でも、取材される側の人権を侵してまで報道すべきではない。

・面白おかしくするためには手段を選ばない番組が多い。

・サバイバルを取り上げた番組で、人を蹴落として生き残るといった企画のものがあるが、最後に残った人に「おめでとう」という気にならない。

#### 《 その他の視点》

・幼児が見ている番組（仮面ライダーシリーズ）でも最近必ず、恋愛問題がからめてある。「カッコいい新人の男優を母親ねらいで売り出すためか？」とってしまう。内容もわかりにくく複雑。もう少し考えて欲しい。

・少女アニメのヒロインのワンパターンな描き方にいつも疑問を感じる。今も昔も、かわいくて華奢で、でも気の強いヒロインは、あこがれの的。雑誌より、テレビで見たほうが、声優さんの高くて華やかな声と共にイメージがわきやすく、同一化しやすいように思う。

・友達の好きな人を知ったある児童が、何とかしてあげたいと思って、皆の前で、その好きな人に向かって大きな声で「○○ちゃんは、君のことが好きなの!」と呼びかけた。友達は泣き、皆は同情

し、当の本人は予想外の事実ショックを受け、半年間、仲間外れになっていました。現実の世界で友達を好きになるって、もう少し繊細なことではないかと思いました。

・ラブシーン描写の彼任せも気になる。顎を軽く上げ、大きな目を軽く閉じて、背骨はちょっと反り気味、そして花他きれいなうずまきに囲まれ、そしてその時、なぜか相手は小さいかあるいは姿がない。その絵をよく描く子どもが卒業後、現実生活でも、彼に身をまかせることで自己確認をするようになり、そして、毎月、生理が来ないと不安になり、次第に彼を待ってとじこもった。他の要因もちろんあったと思うが、「彼にされるまま」の心地良さを教えている描写が気になる。

すべての人が同じ症状を引き起こす訳ではないので、一概に非難することはできないが、もう少し自立してかつかわいく生きる女の子を描いてほしいと思うことがある。子供たちが釘づけになるような番組が次々とできてきているが、メディアに惑わされることなく、現実を見据えて、自分らしさを失わないような生き方をこれからますます求められていく時代かと思う。

## これからテレビはこうなってほしいという観点から

・昨年度、5,6年生を対象に、メディアについてのアンケートをとった、一番信頼できるメディアは？と聞いたら「テレビ」というのが60%以上あった。その理由のほとんどが「映像は絶対にうそをうそをつかない」というものであった。子どもたちが、映像にうそはないと答えたことは恐ろしいことだと思った。

・各社とも、自社の番組についてのTV批評の番組がある。日本テレビ「あなたと日テレ」(日曜・AM5:30-5:45)フジテレビ「週間フジテレビ批評」(土曜・AM5:30-6:00)TBS「TBSレビュー」(日曜・AM5:15-5:45)テレビ朝日「はい！テレビ朝日です」(土曜・AM5:00-5:30)などなど。地方によっては見られないところがある。地方でもぜひとも放送してほしい。

・ラジオで黒柳徹子さんが言っていたが、「子ども番組にお金をかけなくなってきている。子どもにこそ、最高水準の内容でテレビ番組を作ってほしい。それには作る側が、自分の子どもに見せて恥ずかしくないもの」というプライドを持って作ってほしいといていたが、同感である。

・教員とメディア関係者というのは、よく似ていると思う。自分たちが子どもたちにいろいろな影響力を持っているということを認識していることが必要。学生から教員になったとたんに、「先生」と呼ばれることで、気づかぬうちに傲慢になってしまう危険性があることを常に心の中に持っていたい。メディア関係者も同様。若いうちから、世相や世論を動かすだけの影響力をもった世界に浸っていることで、見えなくなってくるものも多い。一般の人と感覚がずれてくる。

これについては、何か企画を練ってほしい。いろいろな教師といろいろな番組プロデューサーが、懇談会や交流会をするという内容。

例えば、懇談会や対談のなかで、教育界から、あるテーマをメディア、とりわけNHK、民放に

リクエストする。例)「生きることの大切さ」とすると、そのテーマに関する番組を各社、または数社協力でもいいが、必ず1本制作し、告知をしっかりと行った上で、放送する。それに対する反応をネット上で受け止める。今現在でも、似たような取り組みはあると思いますが、定期的に行われることで、メディアの絶大な影響力を有効かつ教育的に使用できると思う。

- ・小学校5年生の社会科で、メディアの学習をしている。他の強化でもメディアに関する学習が今回の指導要領の改正で取り入れられている。子どもたちがこうした学習をしていることを知ってほしい。そして、良質な情報を流してほしい。

本当に、日本の未来を危惧するのであれば、短絡的な学校批判や教師パッシングに終わらず教育現場で何が起きているか、ちゃんと見てほしい。そして、テレビの力を貸してほしい。これからの教育の中にメディアがいい形で入り込んでいけたらいい。日本の子どもたちを、いい方向に導くために、学校と家庭と地域とメディアが手を結ぶべきであると思う。

ただ、学校教育や教師を批判するだけでなく、メディア、とりわけテレビの絶大な影響力を子どもたちのすこやかな成長のために役立ててほしい。

- ・NTV、日本テレビは、全番組を通して、情報バラエティーという意識の元に番組を制作すると、当時(10年前)の編成部長さんが言っていた。たしかに、日本テレビは、情報バラエティーにとっても強い。「伊藤家の食卓」「世界まる見え情報局」「所さんの目がテン!」「特命リサーチ200X」「スーパーテレビ」「1億人の大質問、笑ってコラえて!」そういった意味では、情報を伝える番組を一番上手に作れる局。10年前は、ドラマでフジテレビ全盛期だったので、今や日本テレビがダントツで1位。

- ・メディアによって、未来が良くも悪くもなるといっても過言ではないと思う。単に商業主義・営利主義だけでなく、社会を明るくするよい方向に導いてほしい。

- ・世の中が規範意識が乱れ、さまざまな問題が起きている。学校現場も少しでも何とかしたいと手だてを模索し実践しているので、大きな力をもつメディアもそういう方向で考えてほしい。

- ・自分たちが作った番組で、こういう子どもたちを育てたいというような信念を持って番組を作ってほしい。